

平成25年度第2回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】平成25年11月15日（金）14:00～15:30

【会 場】平塚市民センター2階 くすの木

【出席者】

委員 6名：石川幹夫さん、岩崎由紀子さん、牛田洋子さん、片山興大さん、小中山彰さん、平野恵美子さん
（欠席：平岡喜久雄さん）

事務局 4名

市民部長 文化・交流課長 課長代理 担当者

資料

- 1 平成25年度第2回次第
- 2 第1回文化振興懇話会会議録
- 3 資料①文化情報誌たわわについて
- 4 資料②たわわバックナンバー
- 5 資料③平塚市民センターホール月間予定表
- 6 資料④庁内検討会議の主な意見
（たわわのあり方について）
- 7 資料⑤平塚市文化振興基金寄附状況
- 8 資料⑥平塚市文化振興基金チラシ
- 9 資料⑦平成26年度基金活用事業予定

1. 開会

鈴木市民部長

2. 第1回文化振興懇話会会議録の確認

○平成25年度に委員会から懇話会へ移行し、前回はその第1回目であった。組織の御説明をさせていただいた。また、文化施設に関連する法「劇場・音楽堂等の活性化に係る法律」が施行されたためその内容、影響についての御説明、8月に実施された事業の庁内評価についての御報告などを行った。

質問・意見等なし

3. 議題

(1)文化情報誌「たわわ」のあり方について

資料①文化情報誌「たわわ」について ②「たわわ」バックナンバー
③市民センターホール月間予定表 ④庁内検討会議での主な意見

○前回の会議で御報告したとおり、平成25年8月1日に庁内評価が行われた。文化・交流課では市民文化啓発事業の中の一つとして、「たわわ」の発行形態、効果等を評価していただき、「見直し」との結果であった。

○現行の「たわわ」発行状況については資料のとおりである。現行の紙媒体のスタイルについて今後どうあるべきか、求められている情報はどんなものか、新たな発信ツールの可能性などについて御意見をいただきたい。

質問・意見等

・各配付先へは何部くらい送付しているか。

〈事務局〉その団体、施設の規模により異なる。配布先から電話等で増減の希望があると対応している。

・適正部数の調査などは行っているか。

〈事務局〉次号にアンケートを同封する予定である。

・発行部数が7000部から4800部へ減少している。どういった経過か。

〈事務局〉予算的な背景もちろんある。一カ所あたりの配布部数に余裕がありそうだったので全体的に少しずつ減らして対応したが配布先はむしろ増やしている傾向にある。

・部数の減少について配布先から何か意見はあったか。

〈事務局〉特にないが、特集の内容によっては追加で欲しい等の要望が来ることもある。

- ・ 予算の話が出たか、どのように印刷業者を決定しているのか。
〈事務局〉 毎年入札により契約している。
- ・ 私の利用する地区公民館でも、たわわを配架していることは確認できたが、その効果を把握するのは難しいとのことだった。博物館の解説ボランティアをしているが、たわわの記事はとても役に立ち、保存しておけるのでありがたいと思っている。特集によって欲しいと言う人がいるのも理解できる。
- ・ 既存の配布先から部数を減らし、新たな配布先を見つけることも重要だと思う。文化に関心の薄いところなど。
- ・ インターネット検索は確かに便利であるが、自分の関心のあることしか検索はしない。そればかりでは嗜好が広がらず、ふれるものが偏った生き方になるように思う。紙媒体だと偶然目に入り、意図せず新たな情報が得られるということがあるので、文化にとって大変重要だと思う。新聞を大きく広げるといろいろな記事が目に入る。そういう形態は失くしてはいけないと思う。文化を推進する意味では紙媒体の意義は大きい。
- ・ 情報収集の方法には大きな世代差がある。まずはインターネットでという人は私の同世代にはほとんどいない。紙は集積できるという大きな利点がある。
- ・ 市として紙媒体全体を再検討する方向にあるのか。広報ひらつかと集約するという案も出ているのか。
〈事務局〉 紙媒体の再検討については、今後そういう必要があるのではないか、という意見が出ているが、まだ市全体でそのような段階ではない。また、広報へ文化情報を掲載することは可能でも内容、ボリュームに限りがあるのでたわわとは大きく違ったものになると考えられる。たわわという形態に限るわけではないが、文化情報が集約された情報誌という存在は必要だという意見が多かった。
- ・ 催事一覧は情報量がとても多く、これほど多様な情報をまとめているものはあまりないと思う。たわわ独自のものか。
〈事務局〉 そう認識しているが、課題も多い。発行時期が3カ月に1度なので、情報の精度があまりよくないと感じている。
- ・ ひと月分の市民センター予定表は直前に作っているのか。
〈事務局〉 前月の10日現在の内容で発行し配布している。
- ・ 博物館は博物館で施設のお知らせをつくっていたように思うが各施設がこういうものをつくっているのか。
〈事務局〉 予算をとって、カラー印刷などをしているのはたわわのみだと思う。他の部署では月の予定表やお知らせを白黒印刷で作っている。
- ・ たわわは施設のお知らせなどはすみわけが必要だと思う。事業に関わるものの想いや意義を読み手に伝えようと強く意識して編集している発行物だと思う。
- ・ たわわ自体をPRすることも有効ではないか。転入者に渡すもののリストに加えるとか、図書館で手渡してもらおうとか、売り込んでいくような方向の配布方法も検討してみてはどうか。
〈事務局〉 配架以外の方法を考えていなかったのととても参考になった。
- ・ 発行時期が4回ということだが、回数を減らし内容を濃くするというのもひとつの方法ではないか。
- ・ イベントのタイミングなどを意識する必要のない記事であればそれも可能だと思う。

- ・たわわの表紙に年度を表示してはどうか。
〈事務局〉検討する。

(2) 平塚市文化振興基金PR方法について

資料⑤平塚市文化振興基金寄附状況、⑥平塚市文化振興基金チラシ

○平塚市文化振興基金はこれまでに6500万円あまりを御寄附いただき、利息と併せ7000万円以上を積み立ててきた。詳細は別紙のとおりである。平成23年度から活用を始めているが、景気悪化や東日本大震災の影響で寄附額が伸び悩んでいる状況である。効果的なPR方法等を模索している。

質問・意見等

- ・他の基金で、パンフレットに寄附者の一覧が掲載されているものがあつた。どんな人が寄附しているのか見るとよいのではないか。
- ・たわわの裏に寄附者が紹介されているが、金額まで紹介する方法もあるのでは。また、使途をPRするのはとても効果があると思うので、このチラシのような宣伝をもっとどんどんやるべきだと思う。広報誌、タウン誌なども効果があると思う。
- ・実施したイベントの参加者の声などを載せるのもよいと思う。
- ・アウトリーチを実施した学校ではたいへん喜んでいる声を聴いた。堂々とそういった声を紹介して良いと思う。
- ・アウトリーチ実施校のPTAなどに平塚市文化振興基金を活用している事業であることは知らされているのか。
〈事務局〉学校のたよりなどに内容を載せてくれているところもある。
- ・たわわの寄附者紹介などを見ると、高額でないといけないような気がしてしまうかもしれない。少額でも多くの方が協力できる受け入れ体制になっているとよいと思う。
〈事務局〉大変参考になるアイデアをいただいた。実施できるものは取り組んでいきたい。

4. 報告

資料⑦平成26年度基金活用事業概要

○平成23年度から、一年度に300万円を活用し始め継続している。困基文化振興事業、市民文化啓発事業、(公財)平塚市まちづくり財団の文化事業という3つの方向で進めていく。

質問・意見等

- ・小学校アウトリーチの見学は可能か。
〈事務局〉可能である。日程をお知らせする。

5. その他

今年度は会議の開催回数を2回といたしたい。今回は最後とする。
意見聴取の必要性がある議題が発生した場合は改めてお知らせする。

6. 閉会